かしこく　心豊かで　たくましい子の育成をめざして

令和6年度

東明小だより

令和6年8月29日
第6号

「栄光の背中にはその何倍もの努力がある」

校 長　　吉 田　　尚 子

今年の夏休みは、4年ぶりのオリンピックが開催されました。パリで100年ぶりに開かれたオリンピックは、無観客での開催だった前回の東京大会にはなかった熱い声援が競技会場に戻りました。

そんな中、日本選手団は金メダル 20 個、銀メダル 12 個、銅メダル 13 個、合わせて 45 個のメダルを獲得しました。金メダルの数でもメダルの総数でも、海外で開かれた大会での最多数だそうです。

テレビに映る選手の活躍は、心・技・体の調和のとれた目を見張るようなパフォーマンスでした。しかし、私たちが感動をもらったのは、その磨かれた技だけではなく、その背景にある、たゆまざる努力と、アスリートとして感謝を忘れない人間性を感じたからに違いありません。

試合の内容では、「逆転劇」ともいえるような感動的なシーンがいくつかありました。中でも、私の心が強く揺さぶられたのは、オリンピック前半に行われた体操男子の団体戦です。

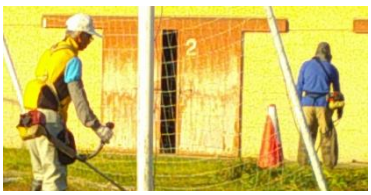
体操男子団体の決勝では、日本はエースの橋本大輝選手が2種目目のあん馬で落下するなど苦しい戦いを強いられていました。4種目が終わった時点では、日本は4位という大変厳しい結果でした。最後の種目である鉄棒を行う時点で、なんとか挽回し2位につけるも、トップの中国に3点余りの差をつけられ、目標の金メダルは、誰の目に見ても不可能な状態でした。

このあとまさかの出来事が起きます。最終種目の鉄棒で、中国の選手が大きなミスを行います。さらには、日本のエース橋本選手がミスなく完璧に着地も決めた演技を行い、高得点をマークしました。まさに、奇跡ともいえる大逆転での金メダル獲得でした。

日本は試合中、ライバルである中国に離されても離されても、最後まで誰1人諦めることなく、何度も何度も円陣を組んで、「絶対に諦めないぞ」と繰り返し言葉を交わし合ったといいます。

個々の力を比べれば、他国の方が、もしかしたら抜きんでた選手がいたに違いありません。しかし、チームみんなの力を結集し、団結力で優勝した日本チームの姿を見ながら、これが、「日本チームのすばらしさだ。」と感じたのは、私だけではなかったのではないでしょうか。まさに、個々の力を倍増させる「チーム日本」がつかみ取った金メダルでした。

さて、本校でも、いよいよ1年の折り返し地点である9月を迎えます。9月以降は、「運動会」、「修学旅行」、「社会見学」など様々な活動や行事が行われます。決して一人では得ることのできない充実感を、仲間と共に活動することで経験し、一人一人の子どもたちの更なる成長につながれば・・・と期待しています。



※環境整備作業には、たくさんの保護者・地域の皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。